

施策番号	1201		
施策名	世界中のひとびとを引き寄せる京都の魅力の向上と発信		
概要	景観、観光、文化、環境等、京都がもつ魅力を向上させ、世界各国に効果的な情報発信を行うとともに、海外からの訪問者が快適に行動できるよう受入環境の充実を図り、世界中のひとびとを引き寄せるまちとする。		
担当局・部室	総合企画局・国際化推進室	共管局・部室	産業観光局・観光M I C E推進室
上位政策	12 国際化		
施策に関係する 主な分野別計画等	京都市国際化推進プラン，京都観光振興計画2020，京都市M I C E戦略2020		

施策の評価

1 客観指標評価

指標名		26年度	27年度	28年度評価					
				前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標の ウエイト
1	コンベンション参加者数(人)	d	a	127,879	160,368	127,879	125.4%	a	1.00
2	-	-	-	-	-	-	-	-	
3	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	-	-	-	-	-	-	-	-	
5	-	-	-	-	-	-	-	-	
6	-	-	-	-	-	-	-	-	
		d	a	客観指標総合評価				a	

2 市民生活実感評価 *この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問		26年度	27年度	28年度回答					
				そう思う	どちらかと言 うとそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと 言うそう 思わない	そう思わ ない	有効回答 者数
1	京都には、世界から観光、留学、ビジネス等を目的として訪れるひとびとを引き寄せる魅力と、受入環境がある。	a	a	120 24.4%	210 42.7%	117 23.8%	36 7.3%	9 1.8%	492
2	京都は、文化資産の継承、環境にやさしい取組などを通して、平和都市として国際社会に貢献している。	a	b	113 23.5%	215 44.7%	120 24.9%	24 5.0%	9 1.9%	481
3	-	-	-						
4	-	-	-						
5	-	-	-						
		a	a	市民生活実感調査総合評価					a

3 総合評価(客観指標総合評価+市民生活実感調査総合評価)

A	施策の目的が十分に達成されている						
	重み付け	☐ 客観指標	a	☒ 市民の実感	a		
(重み付けの理由) 世界への京都の魅力発信に対する評価は、市民の意識が重視されるべきであると考え、また、京都の魅力は多岐にわたるものであり、客観指標総合評価では全ての分野が網羅できないため、市民生活実感調査総合評価を重視する。						27年度	A
(原因分析) 客観指標総合評価 ☒ b評価以上であり、施策の効果が客観指標に表れている。 ☐ c評価以下であり、次の原因が考えられる。						26年度	B
(原因分析) 市民生活実感調査総合評価 ☒ b評価以上であり、施策の効果が市民の実感に表れている。 ☐ c評価以下であり、次の原因が考えられる。							

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		28年度事務事業 評価結果における 目標達成度評価	担当局
		27年度 決算額	28年度 予算額		
1	京都文化交流発信事業の推進	8,901	9,968	普通	総合企画局
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

* 予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

- ・コンベンション参加者数を更に増加させるため、引き続き、海外からの賓客に対する京都の魅力の発信に取り組むとともに、京都の持つ多様な魅力の一層の向上を図る。そのために、庁内の関係部局が連携を密にし、市民が外国の文化に触れる機会を充実させ、「おもてなしの心」の向上を図るなど、受入環境の充実に努める。
- ・京都の魅力を発信するDVD(14言語に対応)を提供するなど、海外との交流団体や大学、海外からの賓客等に対し、様々な機会を通して京都の魅力のPRを図る。

施策名	1201	世界中のひとびとを引き寄せる京都の魅力の向上と発信					
指標名	コンベンション参加者数（人）						
担当課	観光MICE推進室		連絡先	7 4 6 － 2 2 5 5			
1 指標の説明							
1年間に京都市域内で開催された会議で、日本を含め3箇国以上から総勢50名以上の参加のあった国際会議に参加した人数							
2 指標の意味							
経済，文化，国際交流等の様々な分野への波及効果を伴う国際MICE都市の実現に向けた進捗状況を示す指標			3 算出方法・出典等				
			出典：京都文化交流コンベンションビューロー「京都開催の国際会議」、日本政府観光局（J N T O）「国際会議統計」				
4 数値							
	前回数値	最新数値	推移	目標値			
	26年	27年		数値	根拠	達成度	
数値	127,879	160,368	32,489人増	127,879	過去5年間の最高値	125.4%	
	全国順位	中長期目標			備考	数値の公表時期の関係により，評価は暫定値で行う。前回数値については実数に修正している。	
		数値	目標年次	達成度			根拠
数値							
5 評価基準							
最新の数値が過去5年間の a：最高値以上 b：上中間値（最高値と平均値の中間値）以上～最高値未満 c：平均値以上～上中間値未満 d：下中間値（平均値と最低値の中間値）以上～平均値未満 e：下中間値未満			6 基準説明				
			各年度の具体的な数値目標の設定が困難であるため，過去5年間の数値の推移で評価する。 最高値 127, 879人（平成26年） 平均値 106, 038人 最低値 84, 391人（平成23年）				
7 評価結果							
26		27		28			
d		a		a			